

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600776		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホーム しらかば		
所在地	苫小牧市ときわ町3丁目4番1号		
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果市町村受理日	平成26年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関係は行事やお祭りを通じ、良好な関係を保て入居者様にも大変喜んでいただいております。又、地域社会との関わりを奪うのではなく入居者様が安心して生活していただけるよう地域社会との関わりを継続的に働きかけ多く持ってきました。ケアにおいても個別でしたいことや興味を持っている事を日常の中で行って頂けるよう実践してまいりました。職員も入居者様と共に行なっていくよう心掛けております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=trou&JigyosyoCd=0173600776-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 1 月 29 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郊外の新興住宅地に開設した当ホームは、周辺に住宅が少なかった当初から地元との交流に努めており、運動会やふれあいサロンなど町内会行事へ積極的に参加し、ホームのしらかば祭りには多数の住民が楽しんでます。また、住民の運営推進会議や避難訓練への参加、多数のボランティアによる慰問などホーム運営にも地元の人々による協力を頂いており、地域との日常的交流があります。職員は、利用者が家庭的雰囲気の中でその人らしい暮らしができるよう支えるために、利用者の身体状況に合わせて可能なことは自分でできるように体操や外食ツアーなど運動と外出機会を多く持ちながら親身で丁寧なケアサービスに努めており、ホーム内は明るく活気があります。建物内部は総じて明るく、居間兼食堂など共有スペースには床暖が設置され、清掃が行き届いた浴室やトイレも十分な広さがあり、衛生面や安全面にも十分配慮されているため、家族にも安心感があるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルーム、玄関、リビング等の目に付くところに掲示を行っている。職員は常に地域密着サービスの理念を念頭におき職務についている。	基本理念とケア理念をホーム内の見やすい複数の場所に掲示しています。職員は、日々の業務や勉強会を通して理念に基づいたケアサービスを意識し、実践するよう努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内にて開催される運動会や町会館でのふれあいサロン、お祭りへ等積極的に参加し交流を行っている。近隣のホーム等の行事にも互いに参加し交流をはかっている。	積極的に町内会の運動会やふれあいサロンなどの各種行事に参加しています。ホームの祭りでは多数の住民が楽しみ、会議や避難訓練にも住民の参加があり、地域との連携協力体制が築かれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの行事などを地域の方々の参加声掛けをし、日々のケアから学んだ知識を、入居の相談者や地域住民の方々から相談を受けやすい雰囲気作りに努めている。ヘルパー研修生の実習を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回の開催している。入居者、家族、町内会の役員、民生委員、行政。包括支援センターが出席されている。近況の方向を行い、参加者との意見交換を行いサービスの向上に努めている。また、ホーム内で行った勉強会の内容の報告も行っている。	行政関係者以外に町内会会長、民生委員、家族など多数の参加を頂いて定期的に開催しています。会議では、報告事項以外に運営に関する意見や要望等を話し合い、ホーム運営に反映させています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社協からのボランティア(いきいきポイント)の受け入れを行っている。運営推進会議には市や地域包括支援センター職員に参加して頂いている。	ホーム運営に関しての相談や情報交換を随時、電話等で行っています。運営推進会議やグループホーム連絡会に出席の市職員や来訪の保護課関係担当職員と話し合う機会もあり、行政との連携強化に取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルの整備を行い、それを元に拘束防止の内部研修を定期的実施している。夜間以外は玄関の鍵の施錠を行っていない。	関連の外部研修参加や内部の勉強会を実施しながら職員は、身体拘束の弊害と拘束の無いケアの必要性を理解し、実践に努めています。日中の玄関施錠は有りませんが、職員は利用者の出入りを注意深く見守り支援をしています。	研修会参加などで関連資料が充実していますので、これらを整理しながら見やすく分かりやすいホーム独自のマニュアル作成についての検討を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての外部研修の参加、内部研修の開催を定期的に行い、不適切なケアの防止を含め入居者の尊厳を損なわないケアができるように日々努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前受けた講習や保健所の指導による資料を保存しており、月1回行なわれている内部研修の中に盛り込み繰り返し見直す機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	以前外部評価実施時以降新規入居者はいないが、現入居者様、家族様からの不安や疑問には都度対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からご家族様と良い信頼関係を築けるように努力を日々行っている。意見箱の設置や、ご家族様面会時には意見や要望を都度尋ね、意見に対する対応も速やかに行っている。	職員は、担当する利用者のホームにおける暮らしぶりを伝える「写真入りお便り」を郵送し、家族から喜ばれています。家族の来訪時にも職員と自由に話し合い、要望等は連絡帳（ご家族要望書）に記載しながら速やかに対応し、運営に活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場や、定期的に行われる管理者との面談にて意見等の聞き取りを行い、よい良い業務改善に努めている。	カンファレンス後の会議や業務中などに管理者やリーダーと職員が運営に関する提案等を話し合う機会があり、管理者と職員との個別面談もあります。職員は、安全委員会など複数の委員会に属する職務分担があり、これら委員会でも活発な意見交換がなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	過度な労働に対して給与水準は低く向上心はあるがやりがいを感ぜられる職場環境・条件などが整っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受けた後は、必ず内部研修を行い全員が周知し、実践出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修に参加したり、地域とグループホームの情報交換し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が本人の不安な気持ちを察知し、個別対応するなど安心感を持ってもらう関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームに入居するにあたっての困っていること、不安な事や要望を聞き受け止めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にグループホームよりも他のサービスが必要と思われた場合対応に努め、また緊急性等の事情があれば他のグループホームや小規模多機能の利用もすすめている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で常に入居者様の声に耳を傾け意向を確認し、ご本人の望む生活が送れるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会や行事の参加や協力を仰ぎ。開かれたホームを目指し、ご家族様が意見をしやすい雰囲気を作るよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様への連絡を行い。関係性の維持や入居者様の気持ちがリフレッシュ出来るように面会を含め外出や外泊等の実施を働きかけている。入居者様にご家族様に電話をかけたたり、手紙を送ったり出来る環境を整えている。	職員は、利用者の電話や手紙を支援し、馴染みの場所への外出希望は家族対応として家族へ連絡していますが、希望先によっては職員が対応しています。家族や知人が訪ねてきた時は歓迎して、利用者と一緒に過ごす様に配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様ひとりひとりの気持ちを尊重しながら、レクリエーション活動や行事等の実施や開催を行い入居者様同士の関係性の構築や、支えあえるような援助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	前回外部評価後より退去者はいないが、個人資料を二年間保存しておりいつでも情報開示出来るよう準備してある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活シートの記録を綿密に行っている。日々の訴えや行動を注意深く観察し、入居者様の意向の確認や不安や心配事がなく生活が送れるよう支援を行っている。	思いや意向を上手に伝えられない利用者も多いため、生活シートなどの記録確認と表情や行動から判断し、時には職員間で相談しながら本人本位のケアに努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人からの生活歴等の把握を行っている。これまで行ってきたなじみの生活を継続して行えるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握や小さな変化を見逃さないように注意しながら生活シート、申し送り、連絡ノート、担当者会議、モニタリングを活用を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3カ月ごとに見直しを行い、期間中でも入居者様の状況の変化があれば速やかに変更を行っている。職員が担当利用者を持ち、計画制作者との連携を行いながら、入居者様の意向やニーズに即した介護計画を行っている。	利用者を担当する2名の職員がモニタリング等で利用者の状況を把握し、毎月のカンファレンスでプランの3ヵ月毎の定期見直しを協議しています。プラン見直しの際は、家族の意向把握と主治医との相談も行いながら作成し、全職員の共有としています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況とプランの実施状況は生活シートに記入。他にもケアノートにて些細な状況の変化を職員全員が共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存外のサービスを使用する機会はなかったが、社会資源を含め、情報の収集や検討を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市域のオカリナ演奏、訪問エステの受け入れやボランティアや町内会のサロンや運動会の参加を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の意向やご本人様の状況に合わせて、提携医療機関との連携を行っている。	利用者や家族の希望に応じて主治医による訪問診療を受けています。他の医療機関への受診も自由で、その際は原則として家族対応ですが、状況に応じて職員が支援し、受診内容を家族へ報告しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用し、お互いに連携をとりながら、報告、相談を行っている。(週一回のラウンドにて)			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院時にはお見舞いを行い、ご家族様との連携もとりながら医療機関との連携を行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状では看取りの経験はないがリビングウィルをとり、重度化した場合の本人、ご家族の意向を尊重したケアが出来る状況である。	ホームでは看取りまでを可能とし、重度化や看取りの指針を作成して説明して同意書を頂いています。さらに、利用者の重度化が進んだ際に家族や医療機関と事後の支援について相談し、適正なケアを行うよう努めています。		現在まで看取りの事例は有りませんが、利用者の高齢化と介護度アップにより看取り事例発生可能性がありますので、これに備えた職員の関連研修受講が望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ウイルス等の感染時の対応を含め、AEDの使用法の研修を行い、急変や事故を想定した時の対応方法の確認を行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防署関係者を含めた防災訓練の実施を行っている。他にもユニットごとに月二回程度の避難訓練を、時に入居者様を交えて行っている。	消防署の指導を受けながら年2回の定期避難訓練を実施し、住民も参加しています。さらに、毎月自主訓練を行い、災害時用の備品一式を納めた避難袋も用意しています。		ホームは、消防署指導による定期訓練以外に自主訓練も行うなど火災への対策を十分に行っていますが、今後は地震、津波、停電など自然災害に対する対応策も検討して、これらの災害に備えることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助、入浴時、行為介助時は完全個別対応で実施している。前回指摘のあった「親しみをこめた呼びかけ」は、状況にて行っている場面もあるが、ご本人の尊厳を損ねない対応をこころがけている。	利用者の呼びかけ方や入浴などのケアサービス時に利用者の人格尊重と誇りやプライバシーを損ねないよう意識しながら対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の日々の状況の確認を密に行い、うまく訴えや希望を表現できない方でも、表情や行動から読み取れるように心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を尊重しながら、事故等につながらないよう、安全で安心した生活を送れるよう支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容、エステの外部サービスの利用を行っている。日常では更衣時に入居者様の好みの衣類が着用できるように声かけ等の働きかけを行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物等での食品の選択、調理や盛り付け、食後の後片付けを入居者様と職員が共に行っている。提供する食事の季節感や個別な食事形態を考慮しながら行っている。	一部利用者は、食材の買い出しや食事準備等を手伝い、食事中は職員と一緒に和やかに過ごしています。誕生日や行事には特別のメニューを設けると共に、外食ツアーなど外食の機会も多く、利用者はバラエティに富んだ食事を楽しんでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別のチェック表にて食事摂取量、水分摂取量の確認を行っている。不足時にはゼリーや栄養補助食を使用している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後毎に、口腔ケアの実施。うまく行えない方には歯磨きシートを使い清潔を保持している。義歯を使用している方は就寝時に義歯消毒のケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録等で排尿や排便のパターンを確認し、トイレ誘導や便秘時の対応を個別に行っている。状況に応じた使用するパット類の検討やトイレへの移乗が困難な入居者様には、下肢筋力向上の訓練をサービス内容に盛り込んでいる。	自立排泄の困難な利用者には排泄パターンを確認し、会議でも相談して時間間隔や表情など様子を見極めてさりげないトイレ排泄へ誘導しています。また、利用者の状態に適した下着の着用にも配慮しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内部の勉強会にて排泄のメカニズムの確認を行っている。日々のケアでは体操の実施や、ヨーグルトの提供、便秘時には医師の指示により下剤や、座薬にて対応している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の意向に合わせながら、清潔を保てるように定期的な入浴の実施を行い、拒否された場合にも日を改めて入浴出来るように声かけや対応方法の工夫に努めている。入浴剤の使用や、なじみの入居者様同士で入浴する場面もある。	3日に1回の入浴を基本として実施しています。入浴を嫌がる利用者には、入浴に誘う担当者や日時の変更、入浴剤の利用など工夫していますが、無理をせず入浴が出来るよう配慮しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家事活動やレク活動前には体調の確認を行い、体調に合せた参加を促している。昼食後はそれぞれ昼寝等の臥床時間を設けている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋やお薬手帳にて内服薬の確認や、別紙にて内服薬の効能や副作用等の注意点の把握を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの生活歴を考慮しながら趣味や役割など、楽しみをもって行えるよう支援を行っている。行事は行事係りが率先して計画をたて実施している。レクリエーション活動はマンネリにならないよう職員間で意見を出し合いながら実施している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	春や夏はホーム周辺の散歩や買い物の実施。外出行事では温泉ツアー、外食ツアー、花見などを行い外出の機会を設けている。その際はご家族にも参加をして頂いている。	車椅子の利用者を含めてホーム周辺を散歩し、一部の利用者は食材の買い出しにも行っています。年間行事で外食ツアーや紅葉見学など数多くの外出とホーム内での体操やゲームなど身体を動かす機会を増やして体力の維持に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	機会は少ないが外出行事の際の買い物や、週一度の移動販売のパン屋さんでの支払い等の実施で、外部と社会性を継続してもてるように援助を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じてご家族様や親族様、ご友人との交流を図れるように電話や手紙等のやりとりが出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気や季節感を大事にしたリビングや廊下の装飾品の飾り付けを行っている。自室のネームプレートの設置や、トイレや浴室など迷わないように行けるように工夫している。他にも植物や歌の歌詞を設置したり、冬季は乾燥に注意し保湿のための加湿器を使用している。	リビングダイニングは明るく開放的であり、床暖房と5台の加湿器設置で適正温度と湿度に配慮しています。浴室やトイレも十分なスペースと清掃が行き届いています。リビングには、季節の飾りや写真などでアットホームな雰囲気があり、利用者は毎日をのんびりと過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	プライベートスペースとパブリックスペースはあるが、建物の構造上セミパブリックスペースはない。気の合う入居者様同士がお互いの居室を行き来したり、お部屋でお話したりできる環境や居場所づくりを心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみの家具やお気に入りの物品を使用させて頂いている。他にもご家族様やご本人の希望にて植物や写真の持ち込みをして頂き居心地の良い環境作りを行っている。	各居室には、安全なパネルヒーター、クローゼットとベッドが備え付けてあります。利用者は馴染みのタンスなど家具や物品を自由に持ち込んで配置し、ゆったりと安心して暮らしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札、便所や浴室の目印、安全に生活できるよう注意を促す張り紙や、廊下の手すり、浴室ではスムーズに移動できるための介助補助器の設置を行っている。環境整備のための勉強会も予定している。		